

人事異動の季節

—管理者としての自分を見直す機会に—

人事異動の季節です。初めて部下を持つ、また、新しい部下を持つことになる方も多いのではないのでしょうか。このような機会に、上司として、自分はどうあるべきかを考えることも大切ではないのでしょうか。

ある大手生命保険会社が、毎年恒例となっている「新入社員が選ぶ理想の上司ランキング」を発表しました。それによると、1位は、男性が内村光良さん（タレント）、女性が水ト麻美さん（アナウンサー）で、いずれも5連覇だそうです。また、特定の人物ではなく、タイプ別によるランキングでは、1, 2位が、「ホンワカ系」「癒し系」だそうです。

「現場の管理者は、人気投票でやっているわけではない！！」との声が聞こえてきそうですね。部門の業績責任を担って、激務の日々を過ごしている立場からすれば、こう言いたくなるのも当然でしょう。ただ、その業績責任を果たすためには、どうしたら部下が働きやすくなるのか（力が発揮できるという意味で）を考えることは重要です。

真面目な調査（上記が不真面目という意味ではありませんが）を参考に考えてみます。

ある大手IT企業で行った社内調査「部下の満足度が高い上司」で、1位は「**人脈の広い人**」だそうです。その理由は「仕事に行き詰ったときに、何でも相談できるから」だそうです。広い人脈でを活かして、打開策のヒントを提供してもらえということなのです。

また、ランキングではありませんが、ある世界的コンサルティング会社の調査です。これによると「自分の意見は、職場で価値を持っている」と考えている社員は30%程度しかいないとのこと。さらに、この調査会社の試算によると、この比率が60%になると以下の変化が予測できるそうです。

離職率が27%減る。職場における安全に関する事故が40%減る。生産性が12%上がる。

すべての企業に当てはまるとは言えませんが、管理者にとって考える価値がある結果ではないでしょうか。

2つの調査結果をまとめると「安心して相談できる人」「職場で自分の意見が尊重される」という**“安心感”がキーワード**になりそうです。部下に安心感を与え、力を十分に発揮させることができる管理者とは？

新年度、新たな目標に向かってスタートを切るに当たり、管理者とはどうあるべきかを考えてみる大切なときです。弊社では、貴社の個別事情に合わせた各種管理者研修をご提案いたします。ご興味・ご質問がございましたら、下記よりお問い合わせ下さい。



> お問い合わせはこちら